

# 奈良大学地理学会会則

(名 称)

第1条 本会は、奈良大学地理学会とする。

(目 的)

第2条 本会は、地理学の研究、教育の発展を図る事を目的とする。

(事 業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 研究会及び講演会の開催
2. 学会における巡検（臨地研修）
3. 会報（「奈良大地理」など）の刊行
4. その他、本会の目的を達成するために必要な諸事業

(事務局)

第4条 本会の事務局は、奈良大地理学科におく。

(会 員)

第5条 本会の会員は、奈良大学文学部地理学科の教員・学生、および入会希望者をもって構成する。

(会 費)

第6条 本会の会員は、年会費を納入する。

教員会員 年額 1,250円

学生会員 年額 1,250円

その他会員 年額 1,250円

(役 員)

第7条 本会に下記の役員をおく。

会 長 1 名

副会長 1 名

監 事 2 名

委 員 若干名

(役員を選出)

第8条 会長は、奈良大学文学部地理学科主任教授がこれにあたる。その他の役員は、会長が委嘱する。

(役員勤務)

第9条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

副会長は、会長を補佐し、会長事故ある時はこれに代わる。

監事は、会計監査を担当する。

委員は、庶務・会計・編集などの会務を分担する。

(役員任期)

第10条 役員任期は1年とする。但し、重任は妨げない。

(総会)

第11条 総会は、年1回開催し、会務の報告と審議を行う。

(経費)

第12条 本会の経費は、会計・寄付金・補助金およびその他の収入をもってこれに充てる。

(会計年度)

第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年、3月31日までとする。

(会則の変更)

第14条 本会の会則の変更は、総会の議決による。

付 則

この会則は、平成6年4月1日から施行する。

付 則

この会則は、平成10年9月17日から施行する。

## 「奈良大地理」投稿規定

### 1. 投 稿

本会会員は、本誌へ投稿することができる。ただし、学生会員の場合には短報（卒業論文の要旨）に限定する。原稿の執筆は、以下の投稿規定および執筆要領に従って行うこと。

### 2. 原稿の採否・修正

編集委員の決定による。

### 3. 原稿の種類

- 投稿できる原稿
  - 論説：未発表の論文、展望
  - 短報：研究の中間報告・資料および卒業論文の要旨
  - 書評：地理学の内外の論文・単行本の紹介・批評
  - その他：翻訳、地理学ニュース、統計等
- 編集委員会の議を経て、紙碑・講座・シリーズなどを掲載することがある。
- 編集委員会およびその他の委員会で、学会記事・教室記事・卒業生懇話会記事・その他を掲載する。

### 4. 原稿の分量

論説は、本文・注をあわせて400字詰原稿用紙60枚以内とする。

短報は、本文・注をあわせて400字詰原稿用紙40枚以内とする。

(卒業論文の要旨は、同10枚以内とする。)

この他に、適当な枚数の図・表・写真をつけることができる。ただし、図・表・写真は、必要最小限のものに限ること。図、表にはできるだけ英文を付記する。

所定の分量を超過した場合の経費は、投稿者の負担とする。

## 5. 欧文タイトル・欧文要旨

論説には、欧文タイトルと、500～1000語程度の欧文要旨をつけることができる。  
この場合、欧文はしかるべき校閲を経たものとする。

## 6. 原稿用紙

横書きの400字詰原稿用紙を使用すること。ワープロを使用する場合には、1枚20字×20行で打ち出すこと。

## 7. 投稿の締切と本誌の発行

原稿の締切は、毎年度10月末日とする。この際、原稿は完全原稿とし、その後の修正は原則として認められない。原則として初校は筆者が行い、2校以降は編集委員会が行う。

本誌の発行は、当面年1冊とし、毎年3月に行う。

## 8. 別刷

論説・短報等の別刷は、50部を無償とし、それ以上は50部を単位として、著者の経費負担で行うことができる。別刷の希望部数は、『奈良大地理』原稿送付状に記すこと。

## 9. 投稿先

以下に示す執筆要領に従って原稿を作成し、『奈良大地理』原稿送付状をつけて、下記住所の編集委員会まで投稿のこと。

〒631-8502 奈良市山陵町1500

奈良大学文学部地理学教室内

『奈良大地理』編集委員会 宛

Tel. 0742-44-1251 (内1120) Fax. 0742-41-0650 (大学代表)

★なお、不明な点は編集委員会まで問い合わせること。

# 「奈良大地理」執筆要領

## 1. 表題（タイトル）

- 日本語表題の下に欧文表題をつける。  
本文が欧文の場合には、日本語要旨の部分に日本語表題をつける。
- 著者名の右肩に\*（アステリスク）をつけ、所属機関名を脚注に記す。

## 2. 本文

- 現代かなづかいを用いた口語体とする。
- 総説・論説は、欧文で日本語の要旨をつけたものも可能である。ただし、この場合、欧文はしかるべき校閲を経たものとする。
- 地名・人名など難解と思われる漢字には、ルビをふる。
- 句読点、括弧は1マスどり、% mm cm km mg kg cc ml / 500などを用いる。
- 印刷に際し、イタリック体などにする必要がある場合には、著者がその指定を行う。

### 3. 注・引用文献

- 注・引用文献は、右肩に5) のようにつけ、本文の末尾にまとめて示す。
- 引用文献の表示は、以下の例による。
  - 単行本  
矢ヶ崎典隆 (1993) 『移民農業』 古今書院, 344p  
Landsberg, H. E. (1981) *The Urban Climate*, Academic Press, 269p
  - 単行本中の論文  
西村 進 (1984) 「インド洋弧系－東南アジア」(藤田和夫編著『アジアの変動帯－ヒマラヤと日本海溝の間』海文堂) pp.209－222  
Walling, D. E. (1979) *The hydrological of building activity: a study near Exether* (Hollis, G. E. ed. Man's Impact on the Hydorological Cycle in the United Kingdom, Geo Abstract) pp.135－151
  - 雑誌・紀要論文  
水越允治 (1993) 「文書記録による小氷期の中部日本の気候復元」*地学雑誌*102-2 pp.152－166  
Prince, H. (1984) *Landscape through painting*, *Geography* 69-1 pp.3-17
  - 訳 本  
ポコック著 (米田 巖・瀧山健一訳) (1992) 『心のなかの景観』 古今書院, 247p  
この形式に該当しないものは、「参考文献」として末尾に一括して掲載する。但し、日本語、外国語の順とし、日本語については五十音順に、外国語についてはアルファベット順にする。

### 4. 図・表・写真

- 図・表・写真は、一枚毎に別紙に書くか貼るか、図はトレーシングペーパーに墨入れする。文字は、写植を行うために、該当箇所に鉛筆書きする。
- ワードプロ・パソコンを用いて作成した図・表はそのまま印刷にまわせる状態のものに限り採用する。
- 図・表・写真はそれぞれ、図2、表6、写真1などと表記し、図・写真のタイトルは下に、表のタイトルは上に記すものとする。
- 図・表・写真のタイトル・説明などは欧文も書くことが望ましい。
- 投稿された図・表がそのまま印刷にまわせない場合には、著者に修正を求める。それでも印刷にまわせない場合には、著者の経費負担で製図の専門家に依頼することがある。
- 図・表・写真の刷り上がりの大きさは、著者の指定によるが、編集委員会の判断で変更することもある。

### 5. 欧文要旨

- 投稿規定を参照のこと。
- 欧文要旨は、ワードプロないしタイプライターを用いて、ダブルスペースで表示のこと。



